



43

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2021年2月28日号

編集 / 毎日新聞社販売局D・クリエーションセンター

提言は 生かされたか



東日本大震災は11日で10年を迎えます。未曾有の災害を受け、政府の有識者会議「復興構想会議」が打ち出したのが七つのキーワードからなる「復興構想7原則」です。

その理念は、今なお途上にある復興プロセスに浸透しているでしょうか。企画「提言は生かされたか」で検証します。親を失った子のその後を追う企画「遺（のこ）された

震災10年企画

3月1日(月)から=1面、社会面

子どもたち」では、震災がもたらした重い現実に迫ります。

3月9日にはオンラインイベントも実施します。「毎日新聞リリース」で検索してお申込み下さい。

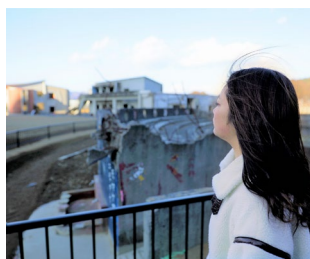


【写真】東日本大震災のがれきの中から見つけたランドセル =岩手県で2011年3月14日



「大川小児童」の10年

3月7日(日)=1面、ストーリー一面



【写真】旧大川小を訪れた女性

東日本大震災で宮城県石巻市立大川小学校では児童・教職員計84人が犠牲になりました。発生初期に現地にたどり着いた記者は、津波が来る直前に母と避難し助かった小学4年生の少女と出会いまし

た。交流を重ねるなかで、笑顔の奥に大きな喪失感を抱えていることに気付かされます。あの日から10年。20歳となった少女が積み重ねてきた日々と、心の変化を見つめます。

特集ワイド

「定年入門 高橋秀実さんに聞く」

3月3日(水)=夕刊特集ワイド

サラリーマンを待ち受ける「定年」とは、実はただの通過点に過ぎず、定年後も含めれば一本の線、一つの道といえるのではないのでしょうか。まさしくその道の入門書を著したのがノンフィクション

作家、高橋秀実さん(59) =写真=です。「我が身に降りかかって初めて耳なじむ響きがある」という、4月末に定年を迎える記者が、「定年道」の初歩について高橋さんに取材しました。



「あの日」から東日本大震災の被災地はどのように変わったのでしょうか。津波にのまれた東北の沿岸部、水素爆発を起こした東京電力福島第1原発の周辺は再生されゆく街の姿、写真も合わせて掲載します。10年前の被災直後の写真を選び、上空からヘリで撮影した現在の写真を掲載します。希望を描いていきます。

【写真】東日本大震災の大津波による原発事故の発生からまもなく10年となる福島第1原発



震災10年特集「あれからこれから」

3月6日(土)から11特集面



竹橋の窓辺から

編集後記



「東京で最初の日刊紙」として毎日新聞の前身の東京日日新聞が創刊されたのは1872年2月21日。来年の創刊150年に向け、弊社では文末に掲載したロゴマークを作りました。デザインは入社2年目の女性によるもので、今後2年間、このマークが紙面やサイトを彩ります。150年は、愛読者のみなさまのおかげです。これからも毎日新聞をよろしくお願います。(宮澤暁子)

新毎日

150

2022年2月21日
毎日新聞創刊150年